

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

杉 田 光

## ○千葉県佐倉市

### 「民間プールを活用した水泳授業の民間委託」について

#### 【所 見】

千葉県佐倉市では小学校のプール施設を撤去し、水泳授業を民間のスイミングスクールで行う取り組みを進めている。私自身この取り組みを聞いたとき、ファシリティマネージメントの観点からすると大変意義のある取り組みであると感じたと同時に、在校生や保護者、卒業生や新入学予定者、地域の方々から理解を頂こうえで、諸課題があるのではないかと推察した。佐倉市では、現在小学校2校のプールを撤廃しているが、佐倉市小中学校34校のプールを撤廃できれば、老朽化による建て替えも含め、従来道理の維持管理費に比べて大幅に削減できる試算である。30年間のライフサイクルコストの場合、約30億円掛かるものが、約17億円となり、約13億円の削減ができるというものである。

本市においても、あらゆる公共施設において、老朽化の波が押し寄せ、建て替えや統廃合を考えなければならない状態の中で、この佐倉市の試算は大変魅力的である。しかし、コスト削減ばかりを求めては弊害もある。特に教育に関わるものは一概にコスト削減を焦ってはいけないと私は思ったが、佐倉市は教育環境の変化によるその後の状況も児童・保護者へ行ったアンケート結果に沿って説明をして頂けた。結果は、大多数の児童・保護者がこれを良とし、継続を望んでいる。授業内容もプロのインストラクターが指導して頂けるとのことであり、児童の水泳技術も向上しているとのことである。全てが順調に推移したのかと聞くと、やはり課題があった。まずは、本事業の必要性についての丁寧な説明に力を注いだということである。もともと該当する小学校の内一校のプールは、地元の有志の方々からの寄付によって建設されており、地元の子供の育成を願う歴史的背景があり、その関係者の理解を深めることを丁寧に取り組んだとのことである。そもそも、学校施設というものは、教育行政サービスを受けるためのものだけではなく、地域のランドマークの様な存在であり、在校生・新入生・卒業生を繋ぐ歴史的・文化的シンボルである。関わる全ての方々都十分納得して進まなくてはならない。本件だけではなく全ての行政施策において地域の方々との議論や相互理解は、あらゆる取り組みの重要な基本であると改めて感じた。

本市も現在進行している公共施設建て替えの案件があるが、十分丁寧な取り組みと理解が必要であると感じた。佐倉市も本件は、始まったばかりの事業であり、結果の検証と改善を繰り返していくとのことである。児童の安定的な教育環境の維持のためにも、現在単年度契約である本件において、民間事業者間の競合が激化し教育環境に影響が及ぼさないように、十分取り組んで頂きたい。

## ○千葉県我孫子市

### 「新規就農者育成事業」について

#### 【所見】

千葉県我孫子市において、農業を営む方の高齢化等によって、農家の方が急激に減少しており、農地として利用されず放棄されている農地が増加している状況である。都心から30キロメートル圏内であり、首都圏の住宅都市である我孫子市の離農者や耕作放棄地の急激な増大は、深刻な状況である。本市においても、近年、耕作放棄地が目につく状況が続いている。農業従事者の高齢化により、耕作が不可能になっている現状や新規就農者の激減は、優良な農地を守るという立場において喫緊の課題である。

我孫子市は、国の新規就農支援策と同時に、我孫子市独自の支援策を展開している。農地の斡旋や賃借料の補助、機材・設備の補助等である。支援策としては他市でも行っている事業もあるが、我孫子市の特質している部分は、就農後、既存農家や新規就農者間の関係性の間に立って、潤滑に継続できるよう取り組んでいる点である。どの業界でもあることだが、生産・販売等を行う上で、業界の人間関係を構築する支援を行うことは重要である。特に、経験による伝統的コミュニティが存在する「農業」こそ、数値や文章で表せない支援が大切である。

きめ細かい取り組みをする我孫子市は、平成21年から平成27年までの間に新規就農者数は24人と実績を挙げている。平成26年には「我孫子市新規就農者連絡協議会」を発足させるに至っている。補助施策の展開だけでなく、市が率先して、人と人との「繋がり構築」にも気を配る取り組みに対し、本市としても見習うべき点がある。